

目的 食料費運用の評価方法には、主観的・客観的両側面の視点が要求される。しかし栄養購入機能に関しては、家族の多様な栄養所要量の充足等、単なる食料費の額だけでは評価し難いこともあって、「経済的に栄養を摂る」という言葉や概念が早くから一般に浸透し定着しているに拘らず、理論的根拠の確実な客観的な方法は殆んど開発されていない。さらに個々の家庭がその家族の実態に見合った栄養を考えた、自主的な食料費の調整・運用を行おうとしても、これを助けるような情報がきわめて得難い現状である。幸いパーソナルコンピューター等の機器が一般に親しまれるようになってきたので、これらを活用して簡単に平易な、栄養購入面の食料費の運用改善のための情報提供を行いたいと考えた。

方法 本研究で開発した理論食料費試算法のプログラム、計算用に単位量の数に換算した日本人の栄養所要量・日本食品標準成分表など、栄養関連の必要データならびに、昨年の11報で報告した食料費変動の体系化による指数など、食料費関連の諸データも機層に記憶させておく。情報希望者が家族や食料品に関する簡単な少数の条件を入力すれば、運用の評価・助言と共に改善の視点・資料も得られるようにプログラムしている。

結果 1. 個別の家庭の条件に応じた食料費が具体的にわかり、評価の基準にできる。
2. 使用された食料費から、それら家庭の栄養購入状態が成分別にグラフで示され、充足率と共にラインプリンターに打ち出され、反省・改善の視点が得られ対策が容易にできる。
3. 使用が容易で、評価文だけでなく、改善のための助言・資料も併せて提示されるので、日常の気軽な相談役として、だれにでも親しみ易い情報入手手段となり得る。